

LIFE TIMES

三菱化学物流株式会社
<http://www.mclc.co.jp/>



平成28年9月1日(木)発行 【隔月(年6回)発行】

発行部署 : ソリューション営業第2本部ソリューション営業部
住所 : 東京都港区芝大門一丁目1番30号
電話番号 : 03-5408-4600
発行責任者 : 古田 泰幸
お問合せ窓口 : 石山 義裕

第125号

【目次】

1. 化学物質管理ミーティング2016への出展
2. 小集団活動全社大会開催
3. 自動運転技術について
4. 自社運営倉庫「神奈川ロジスティクスセンター」開設のご紹介
5. 場所紹介 ~西日本エリア営業部 東大阪事務所(東大阪市)の巻~
6. 男女共同参画社会づくりに向けての全国会議 参加レポート
7. 基礎教育について



1. 化学物質管理ミーティング2016 への出展

去る8月25日、26日の2日間にわたり、パシフィコ横浜において、化学工業日報社主催の「化学物質管理ミーティング2016」が開催され、当社も出展しました。

「化学物質管理ミーティング2016」は化学物質を適正に管理するためのツールやサービスを提供する事業者と化学物質管理で悩みを抱える事業者の双方を結びつける、国内唯一の情報交流展として生まれ、今回第2回目のミーティングでは、化学物質管理の対象を研究開発から製造・使用、廃棄に至るライフサイクル全体にテーマを広げ開催されました。

当社は「ケミカル・ロジスティクス・アドベンチャー」と銘打って、原材料、包装資材の供給から包装、構内作業、保管、出荷、配送に至るまでのサプライチェーン全体を見据えた総合物流会社として、長年に亘る化学品の輸送や包装・資材の取扱い、またそこから培った物流面における化学物質管理についてご紹介させて頂きました。

また、特別ブースにおいて各日1回ずつ、計2回の講演を行い、当社の化学製品における法令遵守や自主管理の取り組みをメインにご紹介させて頂きました。

本出展においては、当社のアピールができたこともさることながら、お客様のニーズや取り組みを拝聴することができ、化学物質管理を適正に実施することは製品の安全を担保し、社会的信頼につながる重要な課題であることを再認識し、当社の更なる取り組みにつながる有意義な2日間となりました。



2. 小集団活動全社大会開催

7月15日に、小集団活動全社大会が当社の坂出支社において、会社幹部、坂出支社関係者及び包材部門のパートナー会社、坂出支社パートナー会社幹部の方々、多数の方々にご聴講して頂き、盛大に開催されました。

1982年度よりスタートした本大会も今回で32回目を迎え、全社110グループ(国内88・海外22)の中から各支社・油槽所、エリア営業部で選ばれた7グループと当社の海外現地法人の一つであるタイのSCL(サイアム・ケミカル・ロジスティクス)社のグループを加えた全8グループで行いました。発表テーマは、①水島支社:現場力強化!バラピッキング・流通加工業務への挑戦、②鹿島支社:オイルフェンス延命対策、③黒崎支社:路線便最適配車への取り組み、④四日市支社:異物選別機設備のTPM、⑤尼崎油槽所:固定資産管理方法の改善、⑥西日本エリア営業部:包装改善(SPF課乾燥剤コスト削減)、⑦SCL:HVAC Divisionライン作業効率化、⑧坂出支社:火気作業を要するローラー取替方法改善、と多岐にわたる内容で、質疑応答を交えながら活発な発表会となりました。



各グループ共に管理職、スタッフ、メンバーが一体となった活動で、いずれ劣らぬ素晴らしい発表の中から、当日4グループ(坂出支社、黒崎支社、四日市支社、SCL)を優秀グループとして選出しました。後日、その中から黒崎支社営業部陸運2課の「KAITEKI配車」が、11月9日に三菱化学(株)鹿島事業所で予定されている「第16回三菱化学グループ小集団活動発表会」の当社代表に決定しました。

3. 自動運転技術について

自動車に関する自動運転技術については本誌でも何度か取り上げてきましたが、本年5月に米国で起きた自動運転モード走行中の死亡事故や、国内大手自動車メーカーによる自動運転技術搭載の新型車発表等、ニュースが続いています。また、物流に関しても国内大手宅配会社とインターネットサービス会社が自動運転を活用した物流サービスの実用実験開始を発表するなど、複数の面から注目が集まっています。

しかし日米欧自動車メーカーを中心に技術開発が進められる一方、自動運転に関する国際的な共通定義は未だなく、今後の開発や市場化に向けて支障が懸念されています。日本では暫定的に下表のように定義されていますが、本年6月の国連自動車基準調和世界フォーラム(WP29)期間中に開催された自動運転分科会において、国際的な共通ルール作成等を進める事が合意されました。

国内では、政府の「官民 ITS構想・ロードマップ2016」を踏まえ、戦略的イノベーション創造プログラム(SIP)において「自動走行システム研究開発計画」が示されています。本計画では2020年のオリンピック・パラリンピックを戦略的に活用すべく、**【国内における自動運転の定義と開発目標】**

開発加速を図るとされており、実用化に向けて今後一層の進展が期待されます。

以前、複数のトラックを操舵制御と速度制御により安全で効率的な走行を可能にする自動運転・隊列走行のご紹介をしましたが、最近におけるトラック関連の新しい技術実験等はなさそうでしたので継続してウォッチし、また情報を発信したいと考えております。

自動運転レベル	システム		概要	実現が見込まれる技術	市場化期待時期
	安全運転支援	単独型			
レベル1	安全運転支援	単独型	加速・操舵・制動のいずれかをシステムが行う状態		
レベル2	準自動走行	システムの複合化	加速・操舵・制動のうち複数の操作をシステムが行う状態	追従・追尾システム(ACC+LKA等) 自動レーン変更 準自動パイロット	市場化済 2017年 2020年まで
レベル3		システムの高度化	加速・操舵・制動を全てシステムが行い、システムが要請したときはドライバーが対応する状態	自動パイロット	2020年目途
レベル4	完全自動走行		加速・操舵・制動を全てドライバー以外が行い、ドライバーが全く関与しない状態	(遠隔型・専用空間) 無人自動走行移動サービス 完全自動走行システム	(限定地域) 2020年まで 2025年目途

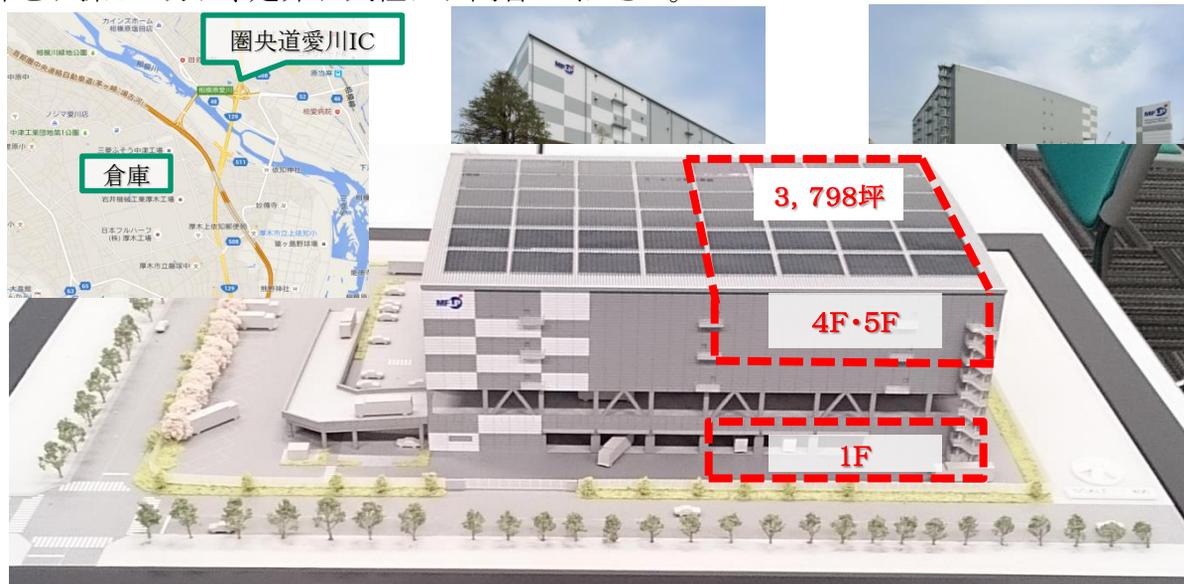
ACC : adaptive cruise control 自動ブレーキ・全車速追従機能付きクルーズ・コントロール
LKA : lane keeping assist 車線維持支援システム

4. 自社運営倉庫「神奈川ロジスティクスセンター」開設のご紹介

当該倉庫は、平成28年9月1日より自社運営倉庫として運用を開始しました。

場所は、神奈川県愛甲郡愛川町圏央道愛川ICから10分の所にあり、中央自動車道・東名自動車道からの利便性が良く、また、圏央道を利用することにより北関東への利便性も良いことから、西方面からの貨物の入口として、保管・スルー配送の拠点として運用することを目的として構えております。関東のみならず西方面から東北方面スルー輸送の中継拠点として将来的には24時間体制も視野に入れ、当社基幹倉庫の一つとして品質・安全QAに注力しながら運営してまいります。

倉庫をお探しの方は、是非お気軽にお問い合わせください。



5. 場所紹介 ～西日本エリア営業部 東大阪事務所(東大阪市)の巻～

西日本エリア営業部東大阪事務所は、企画管理部・営業課・フォーワーディング課・包装資材部・総務部の総勢28名が勤務しています。本年3月末に大阪淀屋橋より東大阪市へ移転してまいりました。

事務所のある東大阪市をご紹介させていただきます。東大阪市は何と言っても「モノづくり」の街です。単位面積あたりの工場数は全国第1位。「歯ブラシから人工衛星まで」なんでもつくれるまちと言われる、高い技術力と多様性が特徴です。特定の分野では世界シェアを誇る会社も少なくありません。

また、東大阪市をご紹介するのに忘れてはならないのはラグビーの聖地「花園ラグビー場」でしょう。日本初のラグビー専用競技場として開場し、年末には全国高校ラグビーが開催されます。2019年のラグビーワールドカップでは開催会場の一つとなり、今後の盛り上がりが期待されます。

更に、歴史作家司馬遼太郎の自宅に開設された司馬遼太郎記念館や近年受験者数日本一の近畿大学、「でんぼ(腫物)の神様」として有名な石切神社など、歴史と文化に溢れる街でもあります。

多様性に富んだ街、東大阪でお客様にKAITEKI物流をご提案できる様、日々精進して参ります。大阪へお越しの際は、ぜひ魅力あふれる街東大阪にお立ち寄りください。

【石切神社】



【花園ラグビー場】



【ラグビー柄のマンホール】



6. 男女共同参画社会づくりに向けての全国会議 参加レポート

2016年6月27日に東京国際フォーラムにて開催されました内閣府主催の「男女共同参画社会づくりに向けての全国会議」に参加して参りました。

定員が1,000名程のイベントではありましたが、2階席まで座席は埋まっており、基調講演の加藤勝信内閣府特命担当大臣、村木厚子前厚生労働事務次官ともに、今後予想される少子高齢化の取り組みには女性の活躍が必須だとして将来を見据えた女性活躍の推進について講演されました。

村木氏は、「誰もが活躍できる社会を目指して」というテーマで女性が活躍しやすい働き方への見直し企業が企業の生産性を高める、とした具体例をあげてお話されておりました。

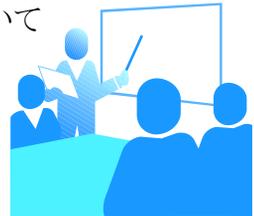
「多様な働き方」に取り組む企業・団体紹介では、結婚・出産・子育てを機に自身の働き方を見直し起業した方々からの事例発表があり、行政や地域を巻き込んで事業展開しているという力強い発表でした。また、「多様性とICT」が女性の活躍を後押しする、といったテーマでパネルディスカッションが開催され、各プログラムを通じ、女性が活躍するための「働き方」について活発な議論が行われました。改めて性別に関係なく、誰もが活躍でき、働きやすい環境を目指していくことが重要だと感じた、非常に内容の濃い3時間でした。

7. 基礎教育について

当社では本年4月より、本社社員を対象にした「基礎教育」講座を開催しています。各支社・部署でも教育は実施しておりますが、各々で作成した資料に基づいた教育のために、講義内容の統一性に欠け、教育内容のレベルも異なっていました。そのため、同一の教育資料を使い、かつ社内の専任講師による講義を行い、社員のレベルを同じ水準へアップさせることを狙って行われています。また、受講者のアンケートを取り入れながら講義内容を選定し、効果的な基礎力向上を試みています。来年度からは、各支社・営業所を対象として同様な基礎教育を展開し、全社的に社員のレベルアップを図る予定です。

第1Qのプログラムでは、「ヒヤリハット」「熱中症予防」などの基本的動作・予防の講座から「消防法(危険物トラック輸送)」等の法的な教育まで、幅広い分野の講座が開催されました。消防法(危険物トラック輸送)では、危険物に関する物性や取扱いの基礎並びに最低限の法令について講義を受け、危険物の取扱いには細心の注意が必要であることを再認識しました。

7月からは第2Qのプログラムが開催され、「車両の基礎」や「引火/火災/爆発」「保護具(防毒マスク・吸収缶の使い方)」といったRC意識向上の講座など合計8つが開催されています。



編集後記

ソリューション営業部 沖

本号が発行されているころには、リオデジャネイロ五輪も閉幕しているのですが、今回はロシアのドーピング問題が開幕以後も話題を提供していました。五輪のために練習を重ねてきたアスリートが出場できないというのは、“無実”の人にとってどんなに無念であるかは想像を超えるものだと思います。コンプライアンス違反を起こすことのリスクの大きさは計り知れません。起こした本人はもちろんのこと、会社自体も社会から大きな制裁を受けることになりかねません。改めて、絶対にコンプライアンス違反を起こさないよう肝に銘じた次第です。

さて、8月に鹿島支社からソリューション営業部へ異動となりました。新たな業務に期待と不安を抱きつつ、早く戦力になれるよう奮闘努力いたしますので、よろしくお願いいたします。